令和2年度 第2回定例農業委員会総会議事録

1. 招集の別 農業委員会等に関する法律27条第1項による
2. 日 時 令和2年5月11日 午後1時30分
3. 場 所 ろくじ館会議室
4. 議 題 議案第4号 農地法第3条許可申請書審議について
議案第5号 農地法第5条許可申請書審議について
議案第6号 農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定による決定について
(諮問)
議案第7号 平成31年度の目標及びその達成に向けた活動の点検・評価の決定について
議案第8号 令和2年度の目標及びその達成に向けた活動計画(案)の決定について
議案第9号 農業振興地域整備計画変更に伴う意見の聴取について(諮問)
5. その他
6. 出席委員
農業委員
1 番 山内 亮一 2 番 長野 和代 3 番 中村 幸信
4 番 松本 茂 5 番 平井 豪 6 番 奥名 政成
7 番 清住 昇 8 番 佐藤 礼治 9 番 福永 浩紀
1 0 番 岡本 篤幸 1 1 番 五嶋 靖 1 3 番 島津 和徳
1 4 番 本田 廣正
7. 欠席委員
農業委員
1 2 番 中村 峯子
農地利用最適化推進委員
西村 孝生 井上 良治 田上 安幸 河嶋 隆雄 本田 忠文
志垣 保博 伊佐 浩二 坂本 秀孝 坂本 導成 緒方 寛二
上村 敦之

8. 議事録署名人

1 番 山内 亮一

2 番 長野 和代

9. 本会議に職務のため出席したものの職氏名

事務局長 井上 幸介

事務局職員 古田 昭憲 本田裕一郎 今村 優香

会 議

1. 開 会

事務局長 皆さん、こんにちは。

今回の定例会は、通知でお示しましたが新型コロナウイルスの感染拡大防止のため最適化推進委員さんは不参加ということで、農業委員さんのみでの農業委員会の総会ということになります。

それでは、定刻になりましたので、総会を始めたいと思います。

総会の成立要件を申し上げます。本日の出席委員は13名です。甲佐町農業委員会会議規則第6条の規定を満たしますので、総会は成立することをご報告いたします。

ただいまから令和2年度第2回定例農業委員会総会を始めさせていただきます。

2. 会長挨拶

事務局長 まず、会長にご挨拶をお願いいたします。

会 長 皆さん、こんにちは。

一気に夏が来たような気候になっております。コロナはまだ終息をしておりません。お互いに体調だけは十分注意していきたいと思います。

本日は、苗代期、さらには麦秋を前にお忙しい中、お集まりを頂きまして、大変ありがとうございました。先ほど課長のほうからありましたように、3密を避ける意味で最適化推進委員さんにはご出席をご遠慮願っております。

農業委員だけの会議になりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

本日は、3条、5条、基盤強化促進法の関係、それに昨年の活動の点検、評価、令和2年度の活動目標等々について等、皆さん方と議論をしていきたいと思います。若干長くなるかもしれませんが、皆さん方の忌憚のない意見をお願いしながら、簡単ではありますが挨拶とさせていただきます。よろしく申し上げます。

事務局長 ありがとうございました。

3. 議事録署名委員の指名

事務局長 それでは、議事録署名委員の指名をお願いいたします。

会 長 本日は、1 番委員の山内亮一委員と 2 番委員の長野和代委員にお願いを致します。

4. 議 題

事務局長 それでは、議事に入りたいと思います。議事の進行につきましては、会議規則第 4 条の規定に基づき、会長をお願いいたします。

会 長 それでは、審議に入ります。

議案第 4 号、農地法第 3 条許可申請書審議についてを議題と致します。それでは、説明をお願いします。

事務局長 それでは、議案第 4 号、農地法第 3 条許可申請書審議について。

農地法第 3 条第 1 項の規定に基づき、別紙のとおり許可申請があったので、許可の決定について意見を求めるものでございます。

令和 2 年 5 月 11 日提出、会長名です。以上です。

会 長 番号 1 番につきまして審議したいと思いますが、番号 1 の相手方（譲受人）は、農業委員の奥名委員です。農業委員会等に関する法律第 31 条、甲佐町農業委員会会議規則第 11 条の参与の制限に該当しますので、審議が終わるまで退席をお願いします。

（奥名委員退出）

それでは、7 番委員の清住委員から説明をお願いします。

○ 7 番 番号 1 番について説明いたします。

（申請人の状況・相手方の状況・申請土地の状況・移動の理由・契約の種類を讀上げ） 以上です。

会 長 次に、申請土地の位置の説明を事務局からお願いします。

事務局 申請土地の位置の説明。

会 長 続きまして、7 番委員の清住委員から、農地の所有権移転（有償）について、農地法上問題がないか説明をお願いします。

○ 7 番 それでは、申請された内容を、農地法に照らし問題がないか説明いたします。

①については、取得する土地に小作契約はありません。

②については、トラクター、コンバイン、田植機などを所有しており、申請地には米、麦、大豆の栽培を計画されており、効率的に利用することに問題ないと思われれます。

③については、該当しません。

④については、本人の従事日数は 300 日程度あり、取得後の農地を適正に管理することについて、何ら問題ないと思われれます。

⑤については、取得後の耕作面積が 9 万 6, 954. 34 平米、下限面積をクリアいたします。

⑥については、該当しません。

⑦については、問題ないと思われます。 以上です。

会 長 現地調査を行ってありますので、11番委員の五嶋委員から説明をお願いします。
○11番 先月の4月27日に、会長、中村委員、事務局と一緒に現地調査を行いました。申請されている農地は、大字糸田字村下にある農地、田の2筆です。今回の申請地には、米、麦、大豆の栽培を計画されており、周辺の営農に支障を来すおそれのないことを報告いたします。 以上です。

会 長 ただいま11番委員の五嶋委員から現地調査の報告、また、7番委員の清住委員から農地法第3条第2項の各号いずれにも該当しないと説明がありました。

これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。ありませんか。

それでは、意見もないようでございます。採決を行います。許可することについて賛成する方は挙手を願います。

(賛成者挙手)

全員賛成と認めます。番号1については、原案どおり許可することに決定いたします。

奥名委員の入室を認めます。

(奥名委員入室)

続きまして、番号2番、番号3番につきましては、相手方(譲受人)が同一なので、一緒に審議したいと思います。

それでは、1番委員の山内委員から説明をお願いします。

○1番 それでは、番号2番、番号3番について説明いたします。

(申請人の状況・相手方の状況・申請土地の状況・移動の理由・契約の種類を讀上げ) 以上です。

会 長 それでは、申請土地の位置の説明を事務局からお願いします。

事務局 申請土地の位置の説明。

会 長 続きまして、1番委員の山内委員から、農地の所有権移転(有償)について、農地法上問題がないか説明をお願いします。

○1番 それでは、申請された内容を、農地法に照らし問題がないか説明します。

①については、取得する土地に小作契約はありません。

②については、トラクター、管理機等を所有しており、申請地には栗、梅の栽培を計画されており、効率的に利用することに問題ないと思われます。

③については、該当しません。

④については、本人の従事日数は150日程度であり、取得後の農地を適正に管理することに何ら問題ないと思われます。

⑤については、取得後の耕作面積が7,105平米で、下限面積をクリアします。

⑥については、該当しません。

⑦については、問題ないと思われます。以上、説明を終わります。

会 長 現地調査を行ってありますので、11番委員の五嶋委員から説明をお願いします。
○11番 先月の4月27日に、会長、中村委員、事務局と一緒に現地調査を行いました。申請されている農地は、大字津志田字尾迫にある農地、畑の2筆です。今回の申請地には、栗、梅の栽培を計画されており、周辺の営農に支障を来すおそれのないことをご報告いたします。

会 長 ただいま11番委員の五嶋委員から現地調査の報告、また1番委員の山内委員から農地法第3条第2項の各号いずれにも該当しないと説明がありました。

これより質疑に入ります。発言のある方は挙手を願います。

佐藤委員、どうぞ。

○8番 反当あたりの単価が相場よりも高いような気がしますけど。
お聞きになっているならお願いします。

会 長 事務局、そこのところ、いいですか。

事務局 事務局としては、詳しい理由はお聞きしておりませんが、少し高いとは思っております。

○1番 実は、この農地の下のほうに作業場があります。少し崖なっていて、その下が作業場なので、崩れると怖いということで、上の畑を買いに行かれたのですよ。
それと、前に、その近所の畑を買っておられたのが、少し高かったものですから、今回の額が少し高くなっていると思います。

現地には、梅と栗が植えてありますので、それをそのまま管理さすという話を聞いています。

会 長 佐藤委員、よろしいですか。

○8番 はい。

会 長 そのほかに何かご意見ございませんか。

なければ、採決を行います。許可することに賛成する方は挙手願います。

(賛成者挙手)

全員賛成と認めます。番号2、番号3については、原案どおり許可することに決定を致します。

続きまして、番号4について審議します。

それでは、14番委員の本田委員から説明をお願いします。

○14番 それでは、番号4番について説明いたします。

(申請人の状況・相手方の状況・申請土地の状況・移動の理由・契約の種類を讀上げ) 以上です。

会 長 それでは、申請土地の位置の説明を事務局からお願いします。

事務局 申請土地の位置の説明。

会 長 続きまして、14番委員の本田委員から、耕作賃借権（1年）について、農地法上問題がないか説明をお願いします。

○14番 それでは、申請された内容を農地法に照らし、問題がないか説明します。

①については、取得する土地に小作契約はありません。

②について、主たる事業が農業、その法人の議決権要件、構成員要件、事業要件、業務執行役員要件等を全て満たしており、問題ありません。

③については、トラクター、汎用コンバイン、管理機、乾燥機等を所有しており、全ての農地が効率的に利用される計画ですので、問題ありません。

④については、信託における権利移動でないために該当しません。

⑤については、耕作農地の転貸、質入れなどでないために該当しません。

⑥については、問題ないかと思われまます。以上です。

会 長 現地調査を行ってありますので、11番委員の五嶋委員から説明をお願いします。

○11番 先月の4月27日に、会長、中村委員、事務局と一緒に現地調査を行いました。申請されている農地は、大字田口字西原にある農地、畑の1筆です。今回の申請地には、ソバの栽培を計画されており、周辺の営農に支障を来すおそれのないことを報告いたします。以上です。

会 長 ただいま11番委員の五嶋委員から現地調査の報告、また14番委員の本田委員から農地法第3条第2項の各号いずれにも該当しないと説明がありました。

これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。

山内委員、どうぞ。

○1番 契約年数が1年というのが、ちょっと短いような気がするのですけれど、何か理由があるのですか。

会 長 事務局。

事務局 事務局としましては、詳細は聞いておりません。ただ、今、山内委員がおっしゃるように、本来であれば、3年とか6年とかされるとかなとは思っておりましたけれども、今回の契約については1年ということになっていますので、熊本県農業会議に確認しましたが1年の契約でも支障はないということでした。

また、別にお互いで契約書を取り交わされていて、期間が来て、どちらからも異議を申し立てない場合については自動継続するということになっております。

今回については、申請者の方、譲渡人の方が、少し様子を見てみたいというような感じだろうと思います。以上です。

会 長 よろしいですか。山内委員。

○1番 五木食品ファームは、しばらく貸借をされてなかったのですよね。

ここ数年前から、また少しずつ借りられるみたいですが、ほかのところも借りてもらえるのかどうか、その辺は事務局の方では分かりますか。

事務局 それは、借りられるみたいです。

○1番 作業をする人がいなくなったので、やめていたと聞きましたが。

○14番 たしか今5人ぐらいでされていますよ。

○1番 そんなにおられるのですか？

○14番 うん。

○1番 私も貸していて、今はソバを植えてありますが小作料を払いに来られましたときに、たまたま留守をして、聞くことが出来なくて。

それで1年は少し短いかなと思うたので。

事務局 数年間は、多分かりられると思います。

会長 ほかはよろしいですか。ほかに何かご意見はありませんか。

それでは、なければ採決を行います。許可することに賛成する方は挙手願います。
(賛成者挙手)

全員賛成と認めます。番号4については、原案どおり許可することに決定を致します。

続いて、議案第5号、農地法第5条許可申請書審議についてを議題と致します。
事務局から説明をお願いします。

事務局長 議案第5号、農地法第5条許可申請書審議について。
農地法第5条第1項の規定に基づき、別紙のとおり許可申請があったので、意見を求めるものでございます。

令和2年5月11日提出、農業委員長名です。 以上です。

会長 議案第5号、農地法第5条許可申請書審議調書の番号1についてを議題としたいと思います。

4番委員の松本委員から説明をお願いします。

○4番 それでは、番号1番について説明を致します。
(申請人の状況・申請土地の状況・転用目的・転用理由・契約の種類を讀上げ)
以上です。

会長 続きまして、事務局から申請地の位置の説明をお願いします。
事務局 申請土地の位置の説明。

会長 続きまして、転用申請に係る可否の判定について、4番委員の松本委員から説明をお願いします。

○4番 それでは、申請された内容を農地法に照らし、問題がないかどうか説明します。
お手元のラミネートの資料の転用申請に係る可否の判断をご覧ください。
①については、今回の申請地は農振農用地ではありません。
農地の状況としては、土地改良法第2条第2項に規定する土地改良事業またはそれに準ずる事業の施行の区域内にある農地に該当するため、第1種農地に該当しま

す。

第1種農地の転用は原則としてできませんが、例外規定である「流通業務施設、休憩所、給油所その他これらに類する施設で、一般国道の沿道の区域に設置されるもの」に該当すると思われるため、許可することは可能と思われます。

そのため、農地法第4条第6項の第1号のイ及びロに該当しません。

②については、今回の事業達成のために代わる土地はありません。

③については、資金計画、融資証明も添付されており、事業の実現性については問題がないと思われます。

④については、若干の造成計画はありますが、周囲を土羽で土砂の流失防止を講じてあり、隣接する農地に支障を及ぼすおそれはありません。

⑤については、問題ないと思われます。

⑥については、今回の申請は仮設工作物ではないので該当しません。 以上です。

会 長 現地調査を行っていますので、11番委員の五嶋委員から説明をお願いします。

○11番 先月の4月27日に、会長、中村委員、事務局と一緒に現地調査を行いました。

申請地は大字船津字中川原にある農地で、農地の状況としては、土地改良法第2条第2項に規定する区域内にある農地に該当するため、第1種農地に該当します。しかしながら、例外規定に該当するため転用可能と思われます。

また、今回の転用申請では、若干の造成計画はありますが、土羽で土砂の流失防止を計画されており、隣接する農地や農業施設に影響を与えないことから、転用による周囲の営農に支障を来すおそれのないことを報告します。 以上です。

会 長 ただいま11番委員の五嶋委員から現地調査の報告、また4番委員の松本委員から転用申請にかかる可否の判断である農地法第4条第6項の各号には該当しないと説明がありました。

これより質疑に入ります。発言のある方は挙手を願います。何かございますか。

それでは、意見もないようでございますので、採決を行います。許可することに賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

全員賛成と認めます。それでは、番号1につきましては、当農業委員会としましては、許可相当の意見を付けて県へ送付を致します。

続きまして、議案第6号、農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定による決定についてを議題と致します。

事務局から説明をお願いします。

事務局長 議案第6号、農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定による決定について。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定による決定について、別紙のとおり諮問があったので、意見を求めるものでございます。

令和2年5月11日提出、甲佐町農業委員会会長名です。

次のページをお願いします。

甲農第194号、令和2年4月24日。

甲佐町農業委員会会長岡本篤幸様、甲佐町長奥名克美。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定による決定について（諮問）。

農業経営基盤強化促進法第3条に基づく農用地利用集積計画について、同法第18条第2項及び甲佐町農業経営基盤強化促進事業実施方針により、農用地利用集積計画を定めたいので、同法第18条第1項の規定により諮問します。

次のページをお願いします。

農用地利用集積計画総括表、令和2年度第2回でございます。まずは、農地利用集積計画の総括表でご説明いたします。

今回の利用権の設定につきましては、賃借権の再設定、6年の田が26筆の1万4,707.34平米、同じく6年の畑が1筆の974平米ですので、賃借権の再設定の計は、田が26筆の1万4,707.34平米、畑が1筆の974平米となります。

賃借権の新規と致しましては、3年の田が2筆の1,672平米、5年の田が18筆の2万692平米、同じく5年の畑が19筆の2万6,419平米、6年の田が1筆395平米、10年の田が2筆の1,668平米、同じく10年の畑が2筆の3,488平米となりますので、賃借権の新規の計と致しましては、田が23筆の2万4,427平米、畑が21筆の2万9,907平米となります。

このため、賃借権の小計と致しましては、田が49筆の3万9,134.34平米、畑が22筆の3万881平米となります。

使用貸借権ですけれども、再設定はございません。新規につきましては、10年の田が1筆の737平米、同じく10年の畑が1筆の189平米ですので、小計と致しましても、田が1筆の737平米、畑が1筆の189平米となります。

今回の利用権設定の合計と致しましては、田が50筆の3万9,871.34平米、畑が23筆の3万1,070平米となります。

その他、所有権移転と致しまして、田が2筆の1,331平米となります。

委員の皆様へ審議していただきますのは、新規の案件となります。詳細は事務局から説明を致します。以上です。

会 長 それでは、議案第6号、農業経営基盤強化促進法の規定による農地利用集積計画についてを審議します。

事務局から説明をお願いします。

事務局 番号1について説明します。

（申請人の状況・申請土地の状況・相手方の状況・貸借期間・貸付年数・契約区分・移動の理由・契約の種類を讀上げ） 以上です。

次に、申請地の位置の説明を致します。

申請土地の位置の説明。

続きまして、相手方の状況について説明します。

番号1の相手方(譲受人)は、中横田集落で集落の担い手として農業を頑張っておられます。主たる営農内容は、米、野菜を栽培されています。今回の申請地には、米の栽培を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われま

以上で説明を終わります。

会 長

ただいま事務局から、番号1について説明がありました。

これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。

何かご意見はございませんか。

それでは、質問もないようでございます。原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

(賛成者挙手)

全員賛成と認めます。番号1については、原案のとおり承認いたします。

続きまして、番号2について審議したいと思います。

事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、番号2について説明。

(申請人の状況・申請土地の状況・相手方の状況・貸借期間・貸付年数・契約区分・移動の理由・契約の種類を讀上げ)

続きまして、申請地の位置について説明します。

申請位置の説明。

次に、相手方の状況について説明します。

番号2の相手方(譲受人)は、認定農業者で大町集落の人・農地プランにも位置づけられるなど、集落の中心経営体として農業を頑張っておられます。主たる営農内容は米、大豆、花木、野菜を栽培されています。今回の申請地にも米の栽培を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われま

以上、説明を終わります。

会 長

ただいま事務局から、番号2について説明がありました。

これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。何かございませんか。

それでは質問もないようでございます。原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

(賛成者挙手)

全員賛成と認めます。番号2については、原案のとおり承認いたします。

続きまして、番号3について審議したいと思います。

事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、番号3について説明します。
(申請人の状況・申請土地の状況・相手方の状況・貸借期間・貸付年数・契約区分・
移動の理由・契約の種類を讀上げ)
続きまして、申請地の位置の説明を致します。
申請地の位置の説明。
次に、譲受人の状況について説明いたします。
番号3の相手方(譲受人)は認定農業者で船津集落の人・農地プランにも位置づ
けられるなど、集落の中心経営体として農業を頑張っておられます。主たる営農内
容は米、WCS用稲、野菜を栽培されています。今回の申請地には、米の栽培を計
画されており、集積後は効率よく利用できると思われます。

以上で説明を終わります。

会 長 ただいま事務局から番号3について説明がありました。
これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。何かございませんか。
それでは、質問もないようでございます。原案のとおり決定することに賛成の方
は挙手をお願いします。
(賛成者挙手)
全員賛成と認めます。番号3については、原案のとおり承認いたします。
続きまして、番号4について審議したいと思います。
事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、番号4について説明します。
(申請人の状況・申請土地の状況・相手方の状況・貸借期間・貸付年数・契約区分・
移動の理由・契約の種類を讀上げ)
続きまして、申請地の位置の説明を致します。
申請地の位置の説明。
次に、相手方の状況について説明いたします。
番号4の相手方である譲受人は、認定農業者で上田口集落の人・農地プランにも
位置づけられるなど、集落の中心経営体として農業を頑張っておられます。主たる
営農内容は、米、麦、大豆、野菜を栽培されています。今回の申請地には、米、野
菜の栽培を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われます。

以上で説明を終わります。

会 長 ただいま事務局から番号4について説明がありました。
これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。
佐藤委員、どうぞ。

○8番 対価、単価は無償になっていますが、何か聞いておられますか。

会 長 事務局。

事務局 対価、単価が無償の理由は聞いておりませんが、この申請人と相手方（譲受人）は同じ集落に住んでおられて、ずっと相手方（譲受人）が作っておられましたので、そのまま管理をしてくれということで、使用貸借になっているのだと思います。

以上です。

○14番 この2筆の圃場で、水田は排水もなく、用水もよその田んぼから水をもらっている状況です。また、畑は道もなく、荒らさないように管理をしてもらうために無償だと思います。

会長 佐藤委員、よろしいですか。

○8番 はい。

会長 ほかに何かございませんか。

それでは、ほかに質問もないようでございます。原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

（賛成者挙手）

全員賛成と認めます。番号4については、原案のとおり承認を致します。

会長 続きまして、番号5から番号15については、相手方（譲受人）が同一なので、一緒に審議したいと思います。

事務局から説明をお願いします。

事務局 番号5から番号15について説明したいと思います。農地の筆数も26筆と多いので、簡潔に説明してよろしいでしょうか。

会長 はい。

事務局 では、説明させていただきます。

（申請人の状況・申請土地の状況・農地中間管理機構・相手方の状況・貸借期間・貸付年数・契約区分・移動の理由・契約の種類を讀上げ）

続きまして、申請地の位置の説明を致します。

申請地の位置の説明。

続きまして、譲受人の状況について説明いたします。

番号5から番号15までの相手方（譲受人）は認定農業者で、横田集落の人・農地プランにも位置づけられるなど、地域の中心経営体として農業を頑張っておられます。主たる営農内容は、酪農で米、飼料用作物を栽培されています。今回の申請地には、飼料用作物の栽培を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われ

ます。

以上、説明を終わります。

会長 ただいま事務局から、番号5から番号15について説明がありました。これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。何かご意見はありませんか。

どうぞ。

○14番 賃借料の高いところ安いところの差があり、特に番号5の農地は、甲佐町の基準の小作料よりもかなり高い価格となっていますが。

会 長 事務局、何か、この説明はありますか。

事務局 事務局も詳しいことは分かりませんが、譲渡人と譲受人とで、面積とか条件とかによって妥当価格をお互いに決められているみたいです。

今回の賃借料は、10アール当たり1万円と1万5,000円と1万9,000円の大体さ3段階で設定しているとお聞きしております。

以上です。

事務局 あと、3,000円につきましては、荒れている農地で少し木の伐採とかが必要なので安く設定されているそうです。

○14番 それはいいと思いますけど、水田のほうは、少しばらつきがあったので、何か条件があるのかなと思って。

会 長 今、説明のとおりです。ランク付けされているみたいです。

事務局 広くて耕作しやすいところは、少し高く設定されているみたいです。

○14番 広いからかな。1個狭いのがあるけど。

事務局 はい。狭いところについては、条件が悪いため少し安くされているという状況だと思います。

会 長 本田委員、よろしいですか。

○14番 はい。

会 長 ほかに何かご意見はございませんか。

それでは、ほかに質問もないようでございますので、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

全員賛成と認めます。それでは、番号5から番号15については、原案のとおり承認を致します。

続きまして、番号16について審議したいと思います。

事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、番号16について説明します。

(申請人の状況・申請土地の状況・農地中間管理機構・相手方の状況・貸借期間・貸付年数・契約区分・移動の理由・契約の種類を讀上げ)

続きまして、申請地の位置の説明を致します。

申請地の位置の説明。

次に相手方の状況について説明いたします。

番号16の相手方である譲受人は、現在は熊本市南区城南町にお住まいですが、御

船町で認定農業者として位置づけられるなど、地域の担い手として頑張っておられます。主たる営農内容は米、麦を栽培されています。今回の申請地にも米、麦の栽培を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われま

以上、説明を終わります。

会 長

ただいま事務局から番号16について説明がありました。

これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。何かないですか。

それでは質問もないようでございますので、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

全員賛成と認めます。番号16については、原案どおり承認を致します。

続きまして、番号17から19については、相手方(譲受人)が同一なので一緒に審議したいと思います。

事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、番号17から番号19について説明したいと思いますが、この案件につきましても農地の筆数が10筆と多いので、簡潔に説明してよろしいでしょうか。

会 長

はい。

事務局

(申請人の状況・申請土地の状況・農地中間管理機構・相手方の状況・貸借期間・貸付年数・契約区分・移動の理由・契約の種類を讀上げ)

続きまして、申請地の位置の説明を致します。

申請地の位置の説明。

次に譲受人の状況について説明いたします。

番号17から番号19までの相手方(譲受人)は、認定農業者で府領地区の人・農地プランにも位置づけられるなど、地域の担い手として農業を頑張っておられます。今回の申請地には、米、麦、大豆の栽培を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われま

以上で説明を終わります。

会 長

ただいま事務局から、番号17から19について説明がありました。

これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。何かございませんか。

それでは、質問もないようでございますので、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

全員賛成と認めます。

番号17から番号19については、原案のとおり承認いたします。

続きまして、番号20、番号21につきましては、相手方(譲受人)が同一なので一緒に審議したいと思います。

事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、番号20、番号21について説明します。

(申請人の状況・申請土地の状況・農地中間管理機構・相手方の状況・貸借期間・貸付年数・契約区分・移動の理由・契約の種類を讀上げ)

続きまして、申請地の位置の説明を致します。

申請地の位置の説明。

次に譲受人の状況について説明いたします。

番号20、番号21までの相手方(譲受人)である株式会社つかさ農園は、御船町の認定農業者で豊秋集落の担い手として農業を頑張っておられます。主たる営農内容は、米、麦、キャベツ、ジャガイモを栽培されています。今回の申請地には、キャベツ、ジャガイモの栽培を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われま

す。

以上、説明を終わります。

会 長

ただいま事務局から番号20、21について説明がありました。

これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。

本田委員。

○14番

先ほど説明があった番号17から番号19の譲受人の面積は5万6,886となっておりますが、これに今回の9,832を足すのですよね。

事務局

まきのさんの面積ですか。

○14番

はい、まきのさんの面積です。そうしたら、番号21番はこの9,832平米を足したときの数字になるのですよね。

でも、この21番の面積はそうにはなっていないので。

事務局

いいですか、会長。

会 長

どうぞ、事務局。

事務局

ただ今のご質問なのですけれども、17から19の相手方(譲受人)は法人です。法人所有の面積が56,886平米です。それと、今ご指摘がありました21号の譲渡人は、個人の所有面積です。

このため、番号17から番号19までの譲受人は代表取締役●●と記載されており、番号21の譲渡人は、個人名の●●と記載されています。

○14番

個人所有ということね。

事務局

そうです。それで、面積が違うというところです。

会 長

よろしいですか。

○14番

はい。

会 長

今の件、よろしいですかね。

事務局

再度申し上げますと、法人で5万6,886平米を所有している。それと、今度、21番

の方は、個人で2万5,174平米を所有している。法人と個人で持っているということです。

○14番 法人所有と個人所有。経営している面積が違うということですかね。
だから、別個、別個の枠にあるということ。

事務局 そうです。

事務局 経営体自体が違うということです。

○14番 足した数字が経営面積ということですか。

事務局 紛らわしくて申し訳ありませんけど。

○14番 いや、その辺、知らなかったからね。

事務局 この法人の面積というのは、お父さんが持っておられた面積です。法人を立ち上げられたときに、お父さんが、その法人に出されて、それを法人が所有しています。

でも、全ての面積を法人が受けたわけじゃなく、その残りを個人の方が所有という形で管理されているというところです。

会 長 よろしいですかね。ほかに何かご意見はありませんか。

それでは質問もないようでございます。原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

(賛成者挙手)

全員賛成と認めます。番号20、番号21については、原案のとおり承認を致します。

続きまして、番号22について審議したいと思います。

事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、番号22について説明します。

この案件につきましては、農地中間管理機構を活用した農業経営基盤強化促進法に基づく農地の売買になります。

事業の仕組みは、所有権を有する農家の方から熊本県農業公社が農地を一旦買い上げた後、農地を購入したい担い手農家を募集し、要件に見合った担い手農家へ売り渡す仕組みです。

それでは、番号22について説明します。

今回の案件につきましては、所有権を有する農業者の農地を熊本県農業公社が現在買い上げていますので、担い手に売買する案件です。

(所有権を移転する者・申請土地の状況を読上げ)

続きまして、申請地の位置の説明を致します。

申請地の位置の説明。

続いて、譲受人の状況について説明します。

譲受人につきましては、認定農業者で、中早川集落で農業を頑張っておられます。

以上で説明を終わります。

- 会長 ただいま事務局から、番号22について説明がありました。
これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。何か意見はございませ
んか。
質問もないようでございますので、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手
をお願いします。
(賛成者挙手)
全員賛成と認めます。番号22番については、原案のとおり承認を致します。
続きまして、番号23について審議したいと思います。
事務局から説明をお願いします。
- 事務局 それでは、番号23について説明します。
この案件につきましても、農地中間管理機構を活用した農業経営基盤強化促進法
に基づく農地の売買になります。
事業の仕組みは、先ほども説明いたしましたので省略いたします。
(所有権を移転する者・申請土地の状況を読上げ)
続きまして、申請地の位置の説明を致します。
申請地の位置の説明。
(所有権を受ける者・契約の種類を読上げ)
以上、説明を終わります。
- 会長 ただいま事務局から、番号23について説明がありました。
これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。
山内委員、どうぞ。
- 1番 今は誰も借りて作ってはおられないのですよね。この申請地は。
会長 事務局。
事務局 以前は、小作をされている方がいらっしゃいましたので解約の手続きを行って
います。
- 1番 今は全部で8反ぐらい持っておられるみたいですが、一部だけ農業公社にお願
いされているのですか。全部されるのではなくて一部だけですよね。
事務局 はい、全部ではありません。8,535平米のうち933平米です。
- 1番 他にも買われる方がいるのかなと思ってですね。
事務局 今回の申請地は、小作をされておられまして、イタリアンを作付けされておられ
ますので、収穫が終わってから解約をされました。
- 1番 イタリアンですね。
事務局 イタリアンを刈り取られてから解約されました。
- 1番 解約。
事務局 申請書の提出のときには、まだ解約はされていませんでしたが、議案書として提

案した後に解約されています。

会 長

山内委員、よろしいですか。

○1番

わざわざ公社を通して売買をされるのかなと思って。

事務局

はい、そうですけど、何か。

○1番

いいえ。分かりました。

会 長

ほかに何かご意見ありませんか。

それでは、ほかには質問もないようでございます。それでは、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

全員賛成と認めます。番号23については、原案のとおり承認を致します。

長時間になりますので、ここでしばらく休憩を取りたいと思います。20分まで休憩を致しますので、お手洗い等々行ってください。20分から再開いたします。

(休 憩)

会 長

それでは、再開いたします。

続きまして、議案第7号、平成31年度の目標及びその達成に向けた活動の点検・評価の決定についてを議題と致します。事務局から説明をお願いします。

事務局長

それでは、議案第7号、平成31年度の目標及びその達成に向けた活動の点検・評価について。

平成31年度の目標及びその達成に向けた活動の点検・評価の決定について、意見の決定を求めるものでございます。

令和2年5月11日提出、甲佐町農業委員会会長名です。

以上です。

会 長

ありがとうございました。

それでは、議案第7号、平成31年度の目標及びその達成に向けた活動の点検・評価の決定について、事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、説明いたします。

平成31年度の目標及びその達成に向けた活動の点検・評価につきましては、なぜ点検・評価が必要なのかということから説明させていただきたいと思います。

平成28年に、農業委員会等に関する法律が改正されておりますが、これに基づき、農地利用の最適化の推進というのが重点活動として位置付けられています。

その中で、三つの活動が必須業務として位置づけられているところでございます。

まず1つ目が、担い手への農地利用の集積・集約化、二つ目が、遊休農地の発生防止・解消、三つ目が、新規参入の促進ということですが、これは皆さん方、農業委員、最適化推進委員さんに課せられた必須業務ということになります。

平成28年に農業委員会法が変わったと言いますけれども、以前までは、これはす

ることができるということでしたが、これを今度は、しなければならないという必須業務になるとともに、活動の点検・評価が必要となったところです。

それでは、項目ごとに説明します。

1 の農業委員会の状況について

農業の概要について説明

農業委員会の現在の体制について説明。

2 の担い手への農地の利用集積・集約化について

現状及び課題について説明。

平成31年度の目標及び実績について説明。

目標の達成に向けた活動について説明。

目標及び活動に対する評価について説明。

3 の新たに農業経営を営もうとする者の参入促進

現状及び課題について説明。

平成31年度の目標及び実績について説明。

目標の達成に向けた活動について説明。

目標及び活動に対する評価について説明。

4 遊休農地に関する措置に関する評価

現状及び課題について説明。

平成31年度の目標及び実績について説明。

目標の達成に向けた活動について説明。

目標及び活動に対する評価について説明。

5 違反転用への適正な対応

現状及び課題について説明。

令和元年度（H31）実績について説明。

活動計画・実績及び評価について説明。

6 農地法等によりその権限に属された事務に関する点検

農地法第3条に基づく許可事務について説明。

農地転用に関する事務について説明。

農地所有適格法人について説明。

情報の提供等について説明。

7 地域農業者等からの主な要望・意見及び対処内容

農地利用最適化等に関する事務について説明。

農地法等によりその権限に属された事務について説明。

8 事務の実施状況の公表等

総会等の議事録の公表について説明。

以上です。

会 長 ありがとうございます。

ただ今、私たちが31年度に活動した結果、内容等について事務局から詳しく説明がありました。これらについて、皆さんから何か意見がありましたら、忌憚のない意見を出していただきたいと思います。

佐藤委員、どうぞ。

○8番 最初の農業の概要のところの面積ですが、経営耕地面積が1,240、遊休農地が283とありますが、これを足したのが上の1,519になるのですか、少し合わないのですが。

事務局 この数字というのが非常に難しく、この経営耕地面積というのは、農林業センサスの数字で、耕地面積は、農家台帳上の面積です。統計上の数字と農家台帳上の数字が合うのが一番ですが、なかなか合いません。

○8番 じゃあ、これは合わないのが本当ですか。

事務局 いや、合うのが本当だと思いますけれども、先ほどから申し上げておりますように、この米印の2番目です。「経営耕地面積は、農林業センサスに基づいて記入」とあります。農林業センサスは5年ごとに調査が行われ、00年のときは林業までやります。今年は、2020年の2月に農林業センサスがあります。そのときに、各調査員が、おたくはどれだけ面積持っておられますかということで聞いた数字を積み上げて出たのがこれです。

上のほうの耕地面積というのは、農家台帳から拾ってきた面積です。

今度は、下の遊休農地の面積については、皆さん方が1号、2号遊休農地を調査した数字となっています。

ですので、数字があちこちから来ますので、なかなかイコールになることは難しいのかなと思います。

事務局長 ベースの面積は一つではないので。

全然違う調査の数値をもってきていますので、やっぱりどうしても合わないところもあるというのが現状だと思います。

事務局 申し訳ありませんけれども、そのような状況にあります。

○8番 では、私たちが一番覚えていないといけない数字というとはどれですか。

事務局 どれを覚えておくのが一番とはなかなか言えません。

耕地面積は、甲佐町の農業者の皆さんが作られている農地ということで、農家台帳上の数字。

経営耕地面積は、センサス上の数字です。この数字は、国のセンサス上の数字ですので、良ければ両方覚えておいてください。

○8番 分かりました。もう一つ、第1号の176.4ヘクタールというのがありますが、これは非農地化の対象になると思いますが、非農地化をするのは、大分ややこしいです

か。それとも、簡単にできるのですか。

事務局 非農地化については、山林化していて、農振農用地でない部分については、非農地化はできますが、山林化して農振農用地に入っていないからといって、どこでもできるのではなく、山からずつつながっていないとなかなか難しいです。

間に農地があったりすると。また、そういうところは、農振農用地以外というのはないと思います。

農地を守る側から考えると、非農地化するとどうしても、そこが手つかずの状態になりますます荒れていきますので、非農地化については、農業委員さんの皆さんで現地を確認していただき、ここは非農地をしてもいいということになれば、できると思います。

○8番 それなら、それが非農地化の対象になるということなら、農業委員会で決めてよいのですか。

事務局 原則は会議に諮る必要はありません。

○8番 なら、簡単にできるはできるのですか。

事務局 簡単にできるというといけませんけれども、十分にそういうのを配慮して、現地確認した委員さんたちで決めてもいいということです。

会長と相談しなくてははいけませんけれども、事務局で考えているのは、担当の農業委員で現地確認を行い、農業委員会定例会で審議をしていただいて、非農地化を進めるなと思っています。

ただ、非農地化をするといっても、後が問題です。

農業委員会が非農地化判断しても、その地権者の方が、法務局で農地から農地以外のものにする手続、地目の変更をされないと、農業委員会は非農地化にしましたといっても、現状は法務局の登記簿を見れば、畑あるいは水田になっていれば意味がありませんので、そこのところをどうするかというのを考えてしないとイケないと思います。

例えば、職権で登記まで農業委員会が行うなと思っています。

会 長 今、事務局が言っているところは大事なところで、やっぱり個々にはなかなかそういう手続はされんと思うとですよ。だから、事務局で法務局に行って、そこまですてやる。

そうすると分母も減るし、耕作されない農地も減っていくし、そこのところまで農業委員会やらないと。

なかなか難しいところは、あるかと思いますがね。

○8番 個人では、なかなかしないでしょうね。

会 長 個人じゃ、まずされないとしますね。

○1番 非農地化する面積は、おおよそどのぐらいあるのですか。

事務局長 非農地をする基準はありあますが、ここをすると決めている所は多分ないと思います。

事務局 それは、農業委員さんたちの判断ですべきだと思います。

事務局長 あくまで、利用状況調査が終わって、それを取りまとめして、1号、2号の遊休農地をまず確定させて、それが時期的には11月か12月ぐらいで。

○1番 甲佐町の農地は、ほとんど農振がかぶさっていますので。

事務局長 そう。だから農振農用地区域は、非農地化ができない。

○1番 だから、そこが難しいところです。農振がかぶつとる中で、ここが山林化しているけれど、ここはできないということでしょう。

事務局長 それはできないですね。

○1番 できるのは、家の近くとか山から繋がっていないとできないということだから。

事務局長 どうしても山つきになってしまいますよね。

○1番 畑の真ん中で山林化したところが多いのです。現状は。だから、それはどうだろうかと思って。

事務局長 さっき説明のあったとおり、調査した年でしかできないのですよ。だから12月に取りまとめしても、3月には非農地通知をださなくてはならない。こういうこともあって、農業委員会で現地確認に行くとしても、そこ1カ月か、2カ月しか期間がないので。

○1番 これは、農家を辞めた人というか、そういう人は、畑なんか特にほったらかしで、下草も刈りに行っていない状況ですよ。

事務局長 基本的にトラクターで耕して復旧できる、そういうところは非農地化できませんけれど。

○1番 当然、トラクターで耕して復旧できるのなら分かるけれども、こんなに太い木があるところなんかは、とてもじゃないけど、何か罰則がない限りは何もしないですよ。

事務局長 そうですね。

○1番 国や県では、耕作放棄地の解消をしたら、いくらかの補助を出すというように聞いていますが、そこまでして畑を作る者は、今はいないのではないですか。

事務局長 耕作放棄地解消事業はあるのですが。やっぱり、非農地化を進めていかないことには、結局分母は減らないでしょうね。

会 長 そうそう。

○1番 だから、どのくらいを見込んであるかなと思ったものですから。

事務局長 特に、どのぐらいというとは、今のところは考えておりません。甲佐町では、非農地の通知は以前からほとんど出してない。

通知を出すのは難しいところではありますよね。

会 長 1筆からでも、取っかかりをどこかでしないと、いつまでたっても非農地化はできないということになります。

事務局 皆様方のお話に横から口出すのもいけませんけれども、やはり非農地になった農地と、そうでない農地が、隣接しないならいいのですが。

必ずどこかで隣接しますでしょう。そうすると、非農地になった農地については、固定資産税も若干ではありますでしょうけれども、安くなるというのはあるかもしれませんが。そういう農地法の縛りを受けないとなってくると、それぞれが自分のところもしてほしいと言ってくることも想定されます。

非農地化はあくまでも、農業委員会が職権です。農家の皆さんが、言ってきたから農地を非農地にするのではない。そのところのすみ分けというか、理解してもらうのが一番問題かなと思います。

○1番 非農地化すると、固定資産税が少しやすくなるというのも、新聞載っていたのですよね。それは、いつからできるのかと思って。

事務局長 基本的には、非農地化というのは、農業委員会が非農地通知を出して、その地権者が法務局に登記をして、地目を原野であったり山林であったり、変更して初めて、その次の年から、固定資産税がその地目に替わる。

もちろん田と山林というのは評価額が全然違うので、そこで税額が落ちる。

○1番 田は、水田基本台帳があるから、すべて管理してあるけれど、畑の場合は、畑の農地台帳はあるけど、個人が何を栽培されているのかなどの管理をどのようにしているのか、の把握はちょっと難しいですね

事務局長 今までは、非農地化はしてないので、まずは取りかかりをする必要がある。

まずは、1回やってみて、不都合があれば運用を変えていけばいいのでは。このため、今回から始めようかなというところですよ。

○1番 耕作放棄地については、課税強化をする話になっているみたいですね。

ただ、非農地化すれば、課税は下がるが、それをほったらかしとくと税金は少し上がるというのを自覚すると大分違と思います。

事務局長 それを皆さんは、多分、分かっていないのですよね。だから、作付さえしていれば固定資産税はその評価額というか、計算上安くなります。

ただ、作ってなかったら、固定資産税は、当たり前の田んぼの固定資産税の計算だから、高くなるのですよ。

また、耕作していない遊休農地に関しては、固定資産税は当たり前に上げなければいけないのですよね。

しかし、税のほうでは、そこまではしていないというような現状ではあます。

とりあえず、令和2年から、これについてもちゃんと進めていきたいなと思っています。会長も、非農地化についてはやっていきたいなということですので。

- 1番 実際、自分の持っている農地はどこにあるのか知らない人が多いですよ。
- 14番 調査があるでしょう。封書で入ってくるのですよね。うちに聞きにこられる人が何人もいます。特に畑ですが。
- 事務局長 そうですもんね。
- 14番 圃場の狭い畑が沢山あって、その畑には入る道がないのすよ。
だから、今は耕作されてなく、どこがどこかわからない状態です。
- 事務局長 いろいろそういうところもまた模索しながら、進めていかなければと思います。
- 会長 今、31年度の目標及びその達成に向けた活動の点検・評価について、説明を受けまして、皆さんからいろいろご意見、要望等も出ております。私たち農業委員、あるいは最適化推進委員は、昨年度の平成31年度から新たな体制で業務を行ってきているところです。
- その活動の内容としましては、ただいま説明がありましたように、一つには、大きい目標として、担い手への農地の利用集積あるいは集約化、それから二つ目に、新たに農業経営を営もうとする者の参入促進、それから、遊休農地に関する措置、それから、違反転用への適正な対応などの業務が責務として位置づけられているところです。
- これらの活動を実のあるものにするためには、活動の点検・評価が重要であると考えているところです。
- 昨年度は、目標に対して活動実績が少し不足している部分もありましたので、本年はその部分を補いながら、農業委員会としましての評価がもらえるよう、しっかり活動の充実を図っていきたいと思います。
- 皆さんからのご意見、大変ありがとうございました。
- ほかに意見がなければ、第7号の平成31年度の目標及びその達成に向けた活動の点検・評価の決定について、賛成の方は挙手をお願いいたします。
- (賛成者挙手)
- 全員賛成と認めます。それでは7号については、原案のとおり承認をしていきたいと思えます。
- 続きまして、令和2年度の目標及びその達成に向けた活動計画(案)の決定についてを議題とします。事務局から説明をお願いします。
- 事務局長 それでは、32ページをお願いします。
- 議案第8号、令和2年度の目標及びその達成に向けた活動計画(案)の決定について。
- 令和2年度の目標及びその達成に向けた活動計画(案)を作成したので、意見の決定を求めるものでございます。
- 令和2年5月11日提出、甲佐町農業委員長名です。

会 長

ありがとうございました。

それでは、事務局から活動計画について説明をお願いします。

事務局

それでは、目標及びその達成に向けた活動計画について説明させていただきたいと思っております。33ページをお願いしたいと思っております。

この目標及びその達成に向けた活動計画については、目標及びその達成に向けた点検評価と同様などところもありますので、違うところだけを説明します。

1 番目の農業委員会の状況

農家・農地等の概要について説明。

農業委員会の現在の体制について説明。

II 担い手への農地の利用集積

現状と課題について説明。

令和2年度の目標及び活動計画について説明。

III 新たな農業経営を営もうとする者の参入促進

現状と課題について説明。

令和2年度の目標及び活動計画について説明。

IV 遊休農地に関する措置

現状と課題について説明。

令和2年度の目標及び活動計画について説明。

V 違反転用への適正な対応

現状と課題について説明。

令和2年度の目標及び活動計画について説明。

計画については簡単な説明になりましたが、皆さん方には、農地利用の最適化の推進ということで、担い手の集積集約化、あるいは耕作放棄地の発生防止、それと新規参入の促進という三つが課せられた必須の業務でございます。

今は、コロナの関係もあってなかなか活動もおもようになりませんが 地域での活動の中で随時指導をしていただきたいと思いますと考えております。

以上でございます。

会 長

ありがとうございました。

ただいま事務局から、令和2年度の目標及びその達成に向けた活動計画について詳しく説明がありました。何かご意見、ご質問はございませんか。ないですかね。

なければ、先ほどの議案第7号の中でも申し上げましたが、私たち農業委員、あるいは最適化推進委員につきましては、農業委員会等に関する法律の改正により責務として農地利用の最適化に取り組む業務として位置づけられ、強化も図られているところです。

その中で、令和2年度の活動目標として、担い手への農地利用の集積あるいは集

約化、新たに農業経営を営もうとする者の参入促進、それから三つ目に、遊休農地に関する措置、それから4番目に、違反転用への適正な対応について説明がありましたが、この目標が達成できるよう、私たち農業委員会ではしっかり活動を進めていきたいと考えていますので、皆さんのご協力を切にお願いしていきたく思います。

皆様から何かご意見がなければ、令和2年度の目標及びその達成に向けた活動の計画（案）について、原案どおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。（賛成者挙手）

ありがとうございました。全員賛成と認めます。それでは原案のとおり承認を致します。

続きまして、議案第9号、農業振興地域整備計画変更に伴う意見の聴取についてを議題と致します。事務局長から説明をお願いします。

事務局長

それでは、35ページをお願いします。

議案第9号、農業振興地域整備計画変更に伴う意見の聴取について。

農業振興地域の整備に関する法律施行規則第3条の2第2項の規定に基づき、別紙のとおり諮問があったため、意見の決定を求めるものでございます。

令和2年5月11日提出、甲佐町農業委員会会長名です。

次のページ、36ページをお願いいたします。

甲農第160号、令和2年4月23日。

甲佐町農業委員会会長岡本篤幸様、甲佐町長奥名克美。

農業振興地域整備計画の農用地利用計画の変更について（諮問）。

このことについて、農業振興地域の整備に関する法律施行規則第3条の2第2項の規定に基づき、農地法上問題がないか諮問します。

詳細につきましては、事務局のほうから説明を致します。

以上です。

事務局

それでは、農業振興地域整備計画の変更に係る土地について説明をさせていただきますと思います。

37ページをご覧くださいと思います。

（変更しようとする土地等の所在・農用地区域の番号・用途区分・変更後の土地の用途・変更しようとする理由を讀上げ）

場所については、39ページに添付しておりますけれども、前のスクリーンのほうでご説明をしたいと思います。

場所の説明。

次に、諮問されている農業振興地域整備計画の変更に伴う内容と致しましては、福岡県三井郡大刀洗町に本社を置くダイキュー運輸協同組合が御船町で業務を営

まれていましたが、受注件数の増加などにより手狭になったため、今回の申請地で物流倉庫及び事務所を建設するために、農振農用地から除外した場合、農地転用するのに農地法上問題ないか、甲佐町長から諮問が来ているところでございます。

農地の状況と致しましては、土地改良法第2条第2項に規定する土地改良事業またはこれに準ずる事業の施行の区域になる農地に該当するため、第1種農地に該当します。

第1種農地の転用は原則できませんが、一定の要件を満たすと例外的に許可することができるとなっています。

今回の申請は、農地法の運用規定の第2の1の(1)のイの(イ)のeの(d)の例外規定、既流通業務施設とか休憩所、給油所、その他これに類する施設で、国道等、あるいは県道の沿道の区域に設置されるものに該当する場合は、例外的に転用の許可はできるとなっています。

今回については、県道嘉島甲佐線の沿道に面しているというところで、この例外規定が適用されるのではないかなど判断はできますが、委員の皆さん、ご審議のほどをよろしくお願ひしたいと思います。

説明については、以上でございます。

会 長 ただいま事務局から、農業振興地域整備計画の農用地利用計画の変更について、甲佐町長からの諮問の案件の番号1について、説明がありました。

何かご意見はございませんでしょうか。詳しく説明がありましたので、お分かりになりましたか。

誰かないですかね。意見、ないですか。

○1番 もともとあそこは、そういう目的の計画があったのですよね。

それなら、良いと思います。やっとなんかということ

会 長 甲佐町への企業参入ということですが、ご意見やご質問はないですかね。

それでは質問もないようでございます。この案件につきまして、許可相当か、不許可相当か決定したいと思います。賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

ありがとうございます。全員賛成と認めます。それでは当農業委員会としましては、諮問案件番号1については許可相当ということで、甲佐町長へ答申を致したいと思います。

続きまして、38ページをお願いいたします。

番号2について、事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、諮問案件の番号2について説明いたします。

(変更しようとする土地等の所在・農用地区域の番号・用途区分・変更後の土地の用途・変更しようとする理由を讀上げ)

場所につきましては、40ページに添付しておりますけれども、先ほど説明を致しました番号1の向かい側になります。

今、ネットヨタが中古車の点検、清掃、車両置き場として業務を行われておりますけれども、申請地はこの南側になります。

場所の説明につきましては以上でございます。

次に、番号2の諮問されている農業振興地域整備計画の変更に伴う内容と致しましては、甲佐町大字白旗字元白旗第一1848番地、1847番地で車の整備、点検を行っているネットヨタ株式会社が、中古車の需要拡大に伴い、事業の拡張を図るために、今回の申請地を農振農用地から除外した場合、農地転用するのに農地法上問題がないか町長から諮問が来ているところでございます。

農地の状況といたしましては、この案件も先ほどの案件と一緒に、土地改良事業第2条第2項に規定する土地改良事業またはこれに準ずる事業の施行の区域内にある農地であるため、第1種農地に該当すると思われま。

第1種農地の転用は、原則できませんけれども、一定の要件を満たすと例外的に許可することができるということになっています。

今回の申請は、運用規定の第2の1の(1)のイの(イ)のeの(e)です。

内容と致しましては、既存施設の拡張ということで、拡張に係る部分の敷地面積が既存の施設の農地面積の2分の1を超えないものに限るということです。

現在、ネットヨタが業務をおこなっている施設についての面積は1万1,283.25平米ですので、この2分の1以内なら6,411平米を超えないなら可能と思われま。

今回の申請が3,173平米ですので、この規定をクリアしますので可能ではないかと考えられます。

説明につきましては以上でございます。

会 長 ありがとうございます。

ただいま事務局から、農業振興地域整備計画の農用地利用計画の変更について、甲佐町長からの諮問案件、番号2の説明がありました。

これより質疑に入りたいと思います。何かご意見、ご質問はございませんか。佐藤委員、どうぞ。

○8番 前の案件も一緒ですけれども、農地が減ることで、意見としては反対です。

しかし、法的に可能かどうかの判断をすることということで、前も事務局から説明があったことですので、それは、必要なことだろうと思いますが、一応意見としては、農地が減ることには賛成しかねるということです。

事務局 おっしゃることは十分分かりますけれども、農地法上では可能かどうかということになります。

確かに農地法は、優良農地を確保するためにありますが、その他にも農地を他の

目的に利用するために例外規定も設けられています。

このため、農振農用地区域内にある用地は原則耕作することとなっていますが、それ以外には農業用に利用する場合を除き農振農用地区域から除外が必要となっています。

このため、今回のようにネットヨタの既存施設を拡張する場合は、農振農用地除外する必要がある、町に申請されましたので、町が県との協議を行い除外が可能かどうか判断しますが、その際には、ただ単に農振農用地から除外するのではなく、ほかの法律との関連性を調べて問題がないか検討する必要があります。

このため、農業委員会へ農振を除外した場合には転用が可能かということで諮問が来ている所です。 以上です。

○8番 例外というとは、県道、国道に限ってということですか。

事務局 そうです。

○8番 それでは、町道とかではだめですか。

事務局 それと、要件がありまして、間口が接続していること。離れていると駄目です。例えば、県道があつて、隣接して里道とか、町道とかあつて、そちらから入る計画ではダメです。この周辺は、以前は農村工業導入促進事業というのがあつて企業の参入がしやすかったのですけれども、今はそういう法律はなくなっています。

事務局長 法律が変わったのですよね。

会 長 佐藤委員、よろしいですか。

余談になりますけれども、甲佐町に企業が入ってきて、働く人も雇用されるようになれば、町のためには安定していいかなと思わないでもないですね。

○1番 農家の方も買収してもらいたいという気持ちも分かりますね。

会 長 それが本当かも知れませんね。地権者でも、反対することもないでしょう。

事務局 最終的にこの農振の諮問は諮問として。これが終わった段階で農振から除外されても、今度は5条の申請が農業委員会のほうに来ます。

その中で、まだ意見というのがあればその時にも審議していただくということで、よろしくお願いします。

会 長 ほかに何かご意見はありませんかね。

それでは、ほかは質問もないようでございます。それでは、この案件につきまして、許可相当か、または不許可相当で決定したいと思います。賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

ありがとうございました。全員賛成と認めます。それでは、当農業委員会としましては、諮問案件の番号2については許可相当ということで、甲佐町長へ答申したいと思います。

これで、本日の議題、9番まで全て終了いたしました。

事務局

それでは長時間にわたり、ありがとうございました。これで第2回定例農業委員会総会を閉会いたします。どうもお疲れさまでございました。

本議事録が真正であることを署名する。

署名委員 議 長

1 番

2 番